

## 乳用種未経産牛を用いた受卵牛の効率的な発情排卵同期化

牛島 仁・森知夫・大野喜代志・三原規義

Effective Estrus-Ovulation Synchronization of Recipients for Embryo Transfer in Holstein Heifers

Hitoshi USHIJIMA, Tomoo MORI, Kiyoshi OHNO and Noriyoshi MIHARA

卵胞波を制御する Ovsynch (OV) と Heatsynch (HE) を用いて、乳用未経産牛の発情排卵を同期化し、胚移植に対する効果を調べた。発情周期に関係なく 50  $\mu$ g の GnRH 製剤を筋肉注射し、その 7 日後の朝夕 2 回 PGF2  $\alpha$  製剤 (PG) を投与した。OV は 4 8 時間後に再度 50  $\mu$ g の GnRH 製剤を投与する事により、HE は 2 4 時間後に 0.75mg エストラジオールを投与する事により、発情を誘起した。受卵牛を同期化できる効率は HE が OV を上回り、PG 投与後 24-72 時間以内に発情が発現する頭数

(96%, 76%)、発情兆候を示す頭数 (93%, 62%)、および発情 7 日後の直腸検査で機能的な黄体を有すると判定した受卵牛頭数 (92%, 63%) は有意 ( $P < 0.001$ ) に増えた。胚移植後の受胎率は、HE が 62%、OV が 51% と同等であった。このことは、HE は乳用未経産牛を用いて胚移植用の受卵牛の発情排卵を効率的に同期化できることを示す。  
(日本畜産学会報, 77, 23-28, 2006)